

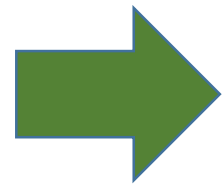
2 1年次の主な取組

- 1 長万部町教育連携会議(計5回)
- 2 先進校視察
- 3 地域の外部資源を活用した特色ある教育活動
- 4 小中高の連携事業
- 5 生徒及び教員に対するアンケートを実施(「PDCA×3」を活用)

2-1 1年次の主な取組(長万部町教育連携会議)

長万部町教育連携会議(第1・3回)

町づくりを核とした小・中・高が連携したキャリア教育の充実について

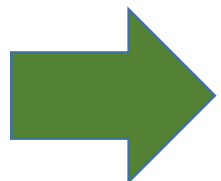


	候補1	候補2
小学校	ふるさとを知り愛する(理解)	発達段階に応じて 内容を発展的に 行う
中学校	ふるさとを探る(分析)	
高校	ふるさとをつくる(創造)	

小・中・高 間の連携
→ 取組の方向性の検討
研究協議会の実施
実践を共有
来年度に向けた計画

長万部町教育連携会議(第2・4回)

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について



- 身に付けさせたい資質・能力の明確化
- 高校での実践発表→小・中で育んでおく必要がある資質・能力の確認

2-2 1年次の主な取組(先進校視察)

北海道寿都町(小中高英語連携)

→ ○英語科で小・中・高における系統的なCAN-DOリストの作成

我々を取り入れたいところ

小・中・高における系統的なCAN-DOリストの作成

我々を取り入れたいところ

総合的な学習の時間において、課題研究プログラムを実施し、小中高合同の発表会を目指す

岐阜県立可児高等学校(地域解決型キャリア教育)

→ ○1年次の夏季休業に地域解決型・体験型・ワークショップ型等、全37プログラム中2つを選択し、高校生・大学生・地域・企業の相互活動報告を行う
○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

我々を取り入れたいところ

・授業スタイルの統一化(目標提示・振り返りシートなどの共通書式)
・中・高共通「できるノート」の作成(ポートフォリオ化)

北海道恵庭市(小・中連携)

→ ○共通した授業スタイル(授業スタンダードの作成→導入とまとめの統一化)
○9年間の単元系統表の整備

2-3 地域の外部資源を活用した特色ある教育活動



写万岳登山(全校生徒・小学生・東京理科大学学生・地域)

2-3 地域の外部資源を活用した特色ある教育活動



町民ふれあいオリンピック参加（町内会との合同運動会）

北海道長万部高等学校・長万部町立長万部中学校 校種間連携の取組（中間報告）

2-3 地域の外部資源を活用した特色ある教育活動



町づくりプロジェクト実施

2-3 地域の外部資源を活用した特色ある教育活動

東京理科大学学生による大学案内と進路相談



東京理科大学教授の特別講座



東京理科大学連携事業

2-3 地域の外部資源を活用した特色ある教育活動



東京理科大学の学生による特別授業

2-3 地域の外部資源を活用した特色ある教育活動



長万部高校OGによる国際理解教育→中高生のためのワークショップ

北海道長万部高等学校・長万部町立長万部中学校 校種間連携の取組(中間報告)

2-4 小中高の連携事業



長万部高校オープンスクールへ長万部中学校2・3年生が全員参加

2-4 小中高の連携事業



長万部小学校への理科・英語教員支援

2-4 小中高の連携事業

長万部小学校・静狩小学校・長万部中学校・長万部高校の共通した取組です。

ご協力をお願いします。

家庭学習強調週間！期

4月10日(月)～4月17日(月)の11日間



今年度もご家庭のご協力を得ながら、町内の学校が連携して家庭学習習慣の定着を目指した取組を進めていきます。1期は、上記の期間に共通して家庭学習を強化しようという取組です。長万部中学校ではこの期間、各学年とも2時間以上家庭学習に取り組むよう学校で指導しています。家庭学習への取組に、ご家庭のご協力をお願いします。

学校で学習した内容を定着させるためには、復習がとても大切です。その復習を行うのが家庭学習になります。

長万部中学校では、期末テストに向けた計画的な取組も行っていきます。町内の小学生、高校生も同様の取組を行います。各ご家庭で、学校が違っても、子どもたちが家庭での学習に取り組むきっかけにしたいと思っています。

携帯・スマホ・ゲーム

<家庭学習強調週間と一緒に
取り組みましょう！>



利用時間制限週間

「家庭学習強調週間」に合わせて、「携帯・スマホ・ゲーム等の利用時間制限」の取組を並行して行います。

すでに約束ことを決めて取り組んでいる家庭もあると思いますが、これを機に親子で利用についての約束ことを決めるなど、家庭で利用について話し合っていきたいと思います。学校でも利用時間等について児童生徒に指導しますが、ご家庭でもご協力ををお願いします。

夜8時以降は携帯・スマホ・ゲームは保護者に預けましょう

小中高合同の家庭学習強調週間の設定

2-4 小中高の連携事業



小中高吹奏楽ジョイントコンサート開催(今年も2月開催予定)

2-5 生徒及び教員に対するアンケートを実施

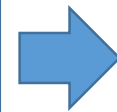
6月

事前アンケート



11月

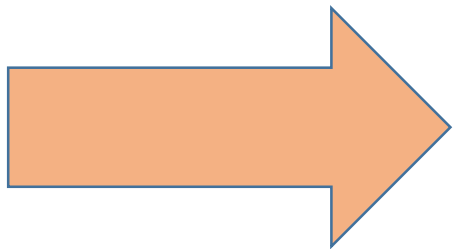
中間アンケート



2月

事後アンケート

PDCA × 3を活用



- こまめにチェックすることができる
- 常に目的を意識することができる
- タイムリーな生徒及び教員の意識調査をすることができる

3-1 1年次の成果と課題(成果)

- ① 町づくりを核とした系統的なキャリア教育が推進された
- ② 「主体的・対話的」という部分では授業改善が推進された

アンケート結果より(生徒)

- ③ 「地域連携・協働」の項目で肯定的な意見が81%→97%
- ④ 「主体的・対話的で深い学び」で肯定的な意見が73%→81%

アンケート結果より(教員)

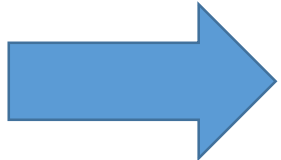
- ⑤ 評価の高い項目→「地域連携・協働」「本事業と地域社会の創造」
(90%以上)
- ⑥ 「指導と観点別評価の一体化」で肯定的な意見が64%→91%

3-2 1年次の成果と課題(課題)

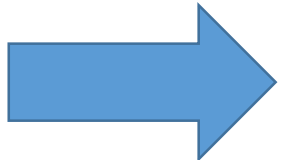
- ① 校種間連携という観点からは、**教員、児童・生徒同士の学びや交流の機会**がまだ少ない
- ② **地域づくりを核としたキャリア教育**の充実
- ③ 各教科・科目ごとの「見方・考え方」を働かせたり、それをもとに創造するといった「**深い学び**」への取組を推進する
- ④ 校種間で連携した**キャリア・パスポート**の作成

4 来年度の取組

- 「学びに向かう力、人間性等」に係る生徒に身に付けさせたい資質・能力を中1から高3まで系統化、具体化、焦点化する

 キャリア・パスポート(できるノート(仮称))
を中1から高3まで持ち上げる

- 身に付けさせたい資質・能力に向け、授業の中で教科横断的、校種縦断で系統化できることを整理

 本時の目標や学習過程を同じように示す
振り返りのワークシートの様式統一

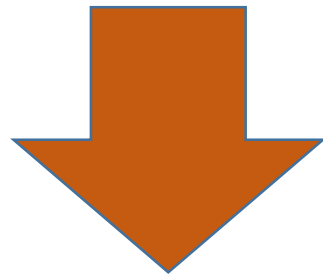
- 関係者会議を町全体の教育力向上のための小中高の教員のより深い連携を目的とした組織に見直す

4 来年度の取組(具体的に)

- ① **キャリア教育の視点**での**総合的な学習の時間**の小中高12年間のカリキュラム作成
→来年度はスタートとして**小中高地域研究合同発表会**開催
- ② **学校グランドデザイン**の完成
→身に付けさせたい資質・能力を「〇〇ができる」という形で明確化
- ③ 「〇〇ができる」の**ルーブリック化**
- ④ **「できるノート(仮称)」**を作成し、中・高で持ち上げる
→・ルーブリック自己評価からチャートグラフ化
・教科についての項目も入れ、探究活動等の記録も残していきたい
- ⑤ 連携会議において、**小中高の教員をいくつかのグループに分けて、校種間連携を前提としたテーマを設定する**

4 来年度の取組

長万部スタイルの小中コミュニティスクールとの一層の連携を図りながら、「チーム長万部」の体制を確立



人づくりを町づくりにつなげていく